

プラン中間見直しに係る循環型社会施策推進部会での検討状況まとめ

資料 2 別紙

品目	これまでの主な取組	現状・課題	対象		部会で示した「今後の方向性」	部会で出た主なご意見
			市民	事業者		
(1) プラスチックごみ対策	・ 宅配・テイクアウトに係るプラ削減助成(R2、R3)及び優良事例の情報発信(R4～) ・ マイボトル推奨店の街頭・市HP等での周知啓発(H27～) ・ 民間事業者と連携した市・民間施設への給水機の設置(R1～) ・ 地域イベントにおける給水機の設置及びマイボトル利用の周知啓発 ・ ごみの分別案内等の全般の周知対策 ・ プラスチック製品の分別回収の実施(R5～) ・ 「資源物店頭回収促進支援事業」の実施(R6～)	【発生抑制】 ・ R5年度の家庭ごみ中のプラごみは、H17年度(排出量のピーク)と比較して、ほとんどの品目が減っているが、その他(緩衝材等)、パック(蓋付き容器)、食料品・日用品等の袋・シートは微増又は横ばいで減っていない。 ・ 事業系も含めた使い捨てプラ排出量は、H27以降横ばい傾向。 【分別・リサイクル】 ・ プラごみ分別実施率(家庭)は、増加傾向で、R4年度は50%であったが、R5年4月にプラスチック製品の分別回収開始により、R5年度は47%に低下した。(R4年度までの算定対象分では52%) ・ プラスチック製品分別回収の認知度は開始前の2割弱から6割強に増加したものの、3割の方に認知いただけていない。			【機運醸成】 ○ ・ 排出事業者向け指針の提示 ○ ・ 目指すべき生活スタイルの提示 ○ ○ ・ 市民、事業者との対話促進 【発生抑制】 ○ ○ ・ 簡易包装の促進 ○ ○ ・ リユース容器の利用促進 【分別促進】 ○ ・ 周知強化(若者・単身・外国人・マンション) ○ ○ ・ 分別対象物や汚れ状況の判断基準を明確化 ○ ・ 分別指導を徹底 ○ ・ 利用客の分別徹底の呼び掛け ○ ・ 自主回収の促進	・ 市民・事業者の機運醸成が大事。幾らか原資を使ってでもインセンティブが必要なのではないか。 ・ 大阪・関西万博もうまく活用して、観光客も交えてリデュース、リユースの文化を思い出すような取組をしてはどうか。 ・ 観光関係でホテル・旅館やサービス業といった観光に接点があるようなところへの対策がまだ一定必要。京都市外から来られる方に対して、どのような協力を求めていくかという視点も入れておくべき。 ・ 大型ごみ関連のプラに関する動きとして、衣装ケースの回収モデルが散見される。ストックを含め、注視が必要。 ・ マイボトル利用に向けた行動変容については、大学・企業との更なる連携が必要。 ・ 政策手法のなかにナッジを意識、組み合わせたほうが良い。 ・ 今後の2R施策について、簡易包装とリユース容器をもう一度進めるという協調型の提示があったが、効果の見通しを明確にしていく必要がある。また、DXと協調型の展開の新機軸であることが見えるようなものにしてはどうか。
(2) 衣類対策	・ 京都市ごみ減量推進会議による修理・リユース紹介サイト「もっぺん」の運営 ・ 行政回収、コミュニティ回収の推進	・ 衣類の生産には、原料調達、紡績、染色、裁断・縫製など、様々な工場(多くは海外)で分業して製造され、CO₂排出、水消費、端材等の廃棄など多くの環境負荷が発生。 ・ 現状、衣類の2/3が「燃やすごみ」「持込ごみ」として、焼却されている。 ・ 国内で回収された衣類の大多数は海外への輸出か、工業用ウエスやフェルトへのカスケードリサイクルに回っている。			【発生抑制】 ○ ・ 周知啓発(衣類回収場所、衣類の環境負荷) ○ ・ 地域内でのリユースルートの確保 【回収体制】 ○ ○ ・ 出しやすい資源回収体制の整備	・ コミュニティ回収に対する支援と同様に衣類のリユースに取り組む団体に対して金銭的な支援ができないか。 ・ リペアに関する事業者も多いと思うので、そうした事業への支援も必要ではないか。 ・ 衣類の回収に関して、様々な回収方法があるなか、それぞれの回収量をどの程度までどのようなバランスで増やしていく方針か全体像のイメージを持って進めてほしい。 ・ 資源物回収の全体像、全体バランスの検討が必要という点は非常に重要。様々な拠点の役割、コミュニティの役割、民間の役割を京都市としてはこう考えるということを整理することが重要。 ・ 古着のリユース促進に関して、大学で実施すると古着を出す方と古着を得る方の層が近いので、有効な取組になるのではないか。 ・ コミュニティ回収での衣類回収の維持・拡大に向けて、少しのインセンティブを付与することで、さらに回収量が増えるのではないか。 ・ リユースを優先して進めるべきで、市民の機運醸成のためにも、京都市役所の率先実行が必要。 ・ 小・中学生の頃から周辺にあるリユース、リペアショップを調べるなど、リユース品を着用することへのハードルを下げておく必要がある。

品目		これまでの主な取組	現状・課題	対象		部会で示した「今後の方向性」	部会で出た主なご意見
				市 民	事 業 者		
(3) 耐 久 消 費 財 対 策		・ 民間事業者と連携したリユース促進	・ 大型の耐久消費財が排出される「大型ごみ」 「持込ごみ」は破碎・焼却を前提としており、 一部金属を除き、循環利用はできていない。 ・ 不用品のリユースサービスの利用を誘導して いるが、破碎・焼却に回る耐久消費財は依然 として多い。	○ ○ ○		・ 民間事業者との連携強化(ジモティースポット) ・ 大型ごみ、持込ごみからのリユース、リサイクルの検討 ・ 大規模資源物回収拠点の拡大	・ 小売店での小型家電回収については、すぐにボックスから 溢れてしまうこと、時期によっては回収物の保管スペース がないこと、回収対象外物の混入が課題である。 ・ 民間事業者による不要品のマッチングができる仕組みも 増えてきているので、うまく連携して京都市らしい取組が できると良い。 ・ 今後の資源回収は、どの時間でも出すことができる拠点 を設置することが重要。 ・ 市内のリユースショップと上手く連携することでノウハウ を活用でき、効果的に粗大ごみの削減につなげられるの ではないか。 ・ 引越業者と協定を結び、リユースを促進できないか。 ・ 今後の回収拠点の運営主体が官民連携になっていくこと は必然だと思うが、柔軟な協調運営体制を念頭に置いて 検討していただくことが重要。
(4) バ イ オ マ ス 対 策	生ごみ 【事業系】	・ 市立小学校給食ごみのリサイクル(H23～) ・ 民間事業所(保育園、社会福祉施設)への 生ごみ処理機購入助成(H27～R3) ・ 業者収集ごみの手数料改定(R7.4施行) ・ 食品リサイクル施設の誘致 →実現には至らず	以下が主な課題となり、食品リサイクル量は 増加していない。 ・ 市手数料と民間施設の受入料金の価格差 ・ 食品リサイクルの実施事業者の偏り ・ 新たに発生する収集運搬料金 ・ 食品リサイクル施設の偏在		○	・ 指針、報告書制度を活用した食品リサイクルの促進	・ 市手数料と民間施設の受入料金の価格差について、 飲食業界も値上げが続き、苦勞している状況で民間施設 との差を埋めるような値上げは現実的ではない。 ・ 生ごみリサイクルは京都市の近くに施設がないと厳しい。 また、中小の飲食店が取り組めるものではない。 ・ 大規模小売店舗立地法からできればリサイクルに取り組ん でもらえるようプレッシャーをかけてもらえないか。 ・ 多くの方が共感できるストーリーを持ったリサイクルループ を作っていくことが重要。 ・ すでに食品リサイクルに取り組んでいる団体とも意見交換 をしながら、京都市に向けた方法を検討し、大きな輪に してほしい。 ・ 生ごみ対策に関して、過去の助成事業の復活も含め、 今後を総合的に考えた再整理が必要。
	生ごみ 【家庭系】	・ 生ごみの三キリ運動(H24～) ・ 生ごみ・落ち葉の堆肥化等の活動支援 (H18～R5) ・ 生ごみコミュニティ堆肥化事業 (H20～R5) ・ ごみ減量推進会議のよる生ごみコンポ ストの普及(R2～) ・ 南部CCバイオガス化施設の整備(R1～) ・ 京北地域におけるバイオガス化の取組(R4～)	・ 食品ロス対策、生ごみ三キリ運動、生ごみ 処理機・コンポスト容器の普及、コミュニティ 単位での取組によって、燃やすごみ中の 生ごみを着実に減らしている。 ・ ただし、燃やすごみ中の生ごみの組成割合 は、他の品目の減量及び分別・リサイクルを 進めているため、依然として4割程度であり、 そこから、一部をバイオガス化施設でリサイ クルしているが、大部分が焼却されている。	○ ○	○ ○	・ コンバインド方式による生ごみのバイオガス化の検討 ・ 地域活性化に寄与するバイオガス化の仕組みの研究	
	せん定枝	・ 持込ごみ搬入手数料の改定(R5) ・ 手数料改定の周知と併せたリサイクル 啓発の実施(R5)	・ 「持込ごみ」として搬入されるせん定枝は、 手数料の改定により、民間リサイクル施設 への搬入が増加しているが、依然として リサイクル可能なものが搬入されていると 考えられる。	○	○	・ 持込ごみ中のせん定枝のリサイクルの可能性検討	
(5) 多 様 な 社 会 的 側 面 を 考 慮 し た 対 策	まごころ 収集	・ まごころ収集事業 (H11一部実施、H20全市展開)	・ 高齢単身世帯が急増しており、日々のごみ 出しで支障をきたす方も増えている。今後も 増加すると考えられ、対策検討が必要。	○		・ ごみ出しが困難な高齢者への支援の充実	・ 「まごころ収集」は福祉と連携した大事な取組である。
	紙おむつ	—	【再資源化】 ・ 再資源化の質の向上、コスト低減、衛生面 への懸念などが課題。 【分別排出】 ・ 汚物を除去を前提としている方式では、 手間や精神的な負担、衛生面の問題が課題。 【製造対策】 ・ 紙おむつ素材の脱炭素化やリサイクルしやす さ向上に向け、研究・技術開発が進められて いるが、実装や普及には至っていない。	○	○	・ 当面は焼却処理を継続 (国、他自治体、民間事業者による取組などの動向を注視) ・ バイオマス素材の紙おむつの普及・開発支援を国などに要望	・ 紙おむつリサイクルは課題が多いことから、クリーンセンター でも負担なく処理できるような状況であれば、当面は焼却 処理を継続する方向性に賛同する。 ・ 紙おむつのみを収集、処理することは、昨今の人手不足で 大変ななか、現場が苦勞することは分かっている。ほしい。
	リチウム イオン 電池	・ 適正な排出先づくり ・ 回収拠点の充実 ・ 周知啓発 ・ ごみ処理施設での火災防止対策	・ 市民等への分別排出への周知を徹底し、 一定浸透がうかがえるものの、京都市の ごみ処理施設での火災検知数は微増傾向 であり、誤排出を減らすには至っておらず、 対策強化が必要な状況。	○ ○		・ 民間施設を含めた回収拠点の拡充 ・ 安全対策と現実的に収集できる枠組検討	・ 消防署のような火災に関する知見を持ったところで、広く 安全に回収できる拠点の整備することは良いことである。 ・ 中高生と連携した取組ができると効果的ではないか。 ・ 京都環境事業協同組合も協力して、回収拠点の設置や 拠点からの回収に協力できたらいいと思う。